



第5回再生利用WGでの指摘事項とその対応方針案

2024年6月12日

環境省環境再生・資源循環局

第5回再生利用WGでの指摘事項とその対応方針案

	委員の指摘事項	対応方針案
1	<p>安全評価モデルがどれくらい正確なのかについて、保守的とも指摘をされているので、モデルを検証しなければいけないのではないか。</p> <p>また、実証事業における作業者ごとの被ばく線量データについて、モデルで計算した値とどのくらい差があるのか。</p>	<p>実証事業における被ばく線量データについて、資料2(方策⑥)のとおり、整理を行ったところであり、引き続き検討を進めます。</p>
2	<p>IAEAの専門家会合での評価・助言において、「最適化プロセス」についての記載があるが、内容が分かりにくいので、分かりやすく表現を整理すべきではないか。</p>	<p>今後、情報発信をする際には、発信先に応じ、分かりやすい表現となるよう留意します。</p>
3	<p>IAEAの専門家会合での評価・助言において、「目標線量である1mSv/yについて、例えば覆土を用いることにより、さらに下回る線量を目指す最適化を検討することは、国際的な安全基準に整合している。」と記載があるが、1 mSv/y以下を目標とすることが適切なのか、それともさらに下回る線量を目指す最適化を検討することが適切なのか。どのように評価されているか、分かりやすく記載すべきではないか。</p>	<p>資料2(方策⑦)のとおり、考え方を整理しました。</p>

第5回再生利用WGでの指摘事項とその対応方針案(続き)

	委員の指摘事項	対応方針案
4	層Aと層Bにより、合理的に達成可能な範囲で追加被ばく線量の低減が図られると記載されているが、この場合、層Bが例えば法面浸食等で浸食された場合も踏まえて、層Aと層Bを維持しないといけなくとも読めるので、誤解のないように整理すべきではないか。	資料2(方策⑦論点2)のとおり整理しました。
5	覆土等の覆いによる放射線の遮へい効果は、結果として得られるものというよりは、放射線防護という観点では、重要なものだと思うので、記載について検討すべきではないか。	資料2(方策⑦論点2)のとおり整理しました。
6	覆土等の覆いを設けずに栽培した作物の放射能濃度について、100Bq/kg以下より十分小さい値となり、安全上問題がないことを確認したという記載があるが、その農作物もしくは資源作物の放射能濃度の測定結果を示すこと。	参考資料3に長泥地区の環境再生事業での栽培試験結果を記載しました。
7	道路盛土実証事業における浸透水について、放射能濃度としては問題ないというのは十分理解できたが、水量はどの程度発生しているのか、分かれば参考までに教えてもらいたい。	参考資料3に浸透水浸出量の計測結果を記載しました。